

# 研究課題

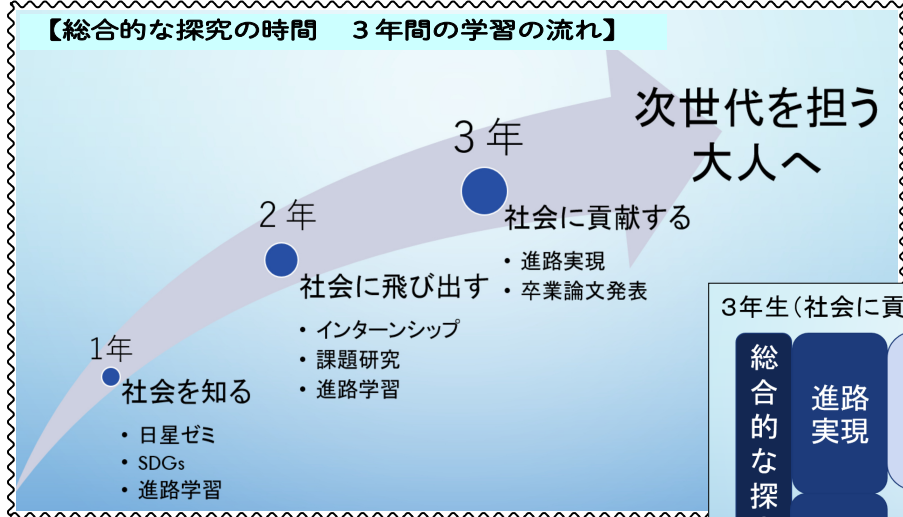
パナソニック教育財団 2023年度成果発表会  
第47回特別研究指定校 (2021~2022年度)

## SDGs未来都市舞鶴市を通して地方創生を考える ~ICTで人と繋がる。社会と繋がる。教科が繋がる。誰一人取り残さない教育をめざして~

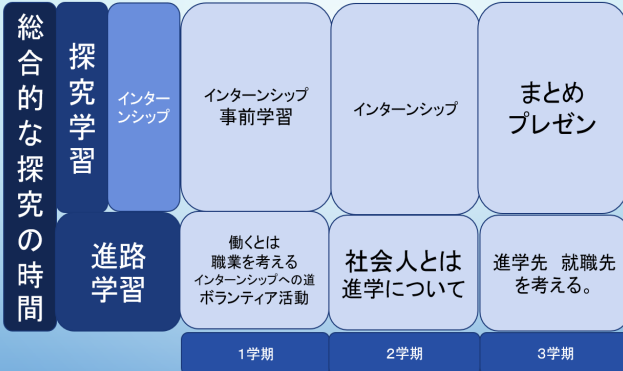
【総合的な探究の時間の取組の報告】

学校法人聖ヨゼフ学園 日星高等学校

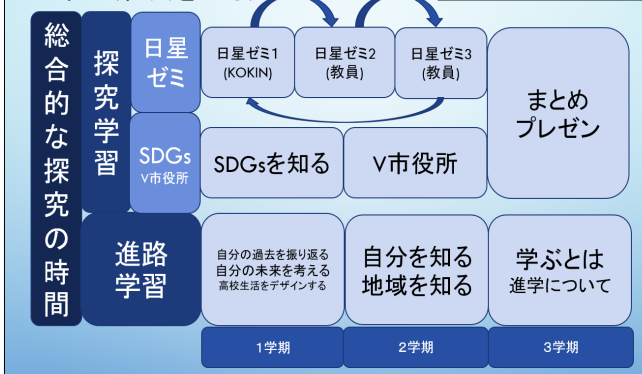
### 【総合的な探究の時間 3年間の学習の流れ】



2年生(社会に飛び出す)



1年生(社会を知る)



京都北部の高校で **初! ユネスコスクールに加盟!**

社会の未来を共に探究します!

Certificate of Membership  
UNESCO Associated Schools Network

St. Joseph Educational Corporation Nissei High School  
Maizuru-city, Japan

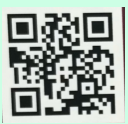
「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを 築かなければならない。」  
(ユネスコ憲章前文)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Information and Communication Technology  
第8回 **関西教育 ICT展**  
Kansai Educational ICT Exhibition

8.3<sup>日</sup>-4<sup>日</sup>  
インテックス大阪  
10:00-17:00

聖ヨゼフ学園日星高等学校  
京都府舞鶴市  
TEL0773-75-0452





## 【研究の目的】

①SDGs の考え方をもとに ICT を活用し市役所、地元企業を巻き込んだ「総合的な探究の時間」を計画した。  
(研究仮説) 地域貢献できる生徒を育てることによって生徒の自己肯定感は向上するのか。

②ICT を活用した「教科横断型授業」  
(研究仮説) 教科横断的な授業によって生徒の学習意欲が向上し、より深く学ぶことができるのか。

以上2点を調査し、学習指導要領にある教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源として地域等の外部の資源を効果的に組み合わせること、教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していくことを目的とした。

## 1年生

## 【各学年の取組】

「SDGs・バーチャル市役所」  
フィールドワーク

「広報広聴課」から生徒に出された課題は以下の通り。

- ・私の思う舞鶴のいいところ「MYツルいい」の景色や色などをSNSで同世代を中心に発信するのならどのツール(インスタグラム、ツイッターなど)を使用するのか。
- ・自分がインフルエンサーになったと考え、「MYツルいい」をSNSで発信して下さい。
- ・投稿した内容について、反響の大きさなどを分析してください。

こうした課題を解決するためフィールドワークを行った。



(吉原の入り江)



(舞鶴親海公園)



(ふるるファーム)



(五老ヶ岳公園)

「最初は自分もツルいい舞鶴を知らなかったけど、学習していくうちにだんだんわかっていきました。また、勉強していくうちに自分も知らない舞鶴市のいいところがあると知ってもっと調べて勉強をしていきたいと思いました。」

## 2年生

## 【インターンシップ】

9月8日,15日 10月6日,20日,10日

今年度は予定通りの5回のインターンシップを行うことができた。12事業所に分かれ、自分達の知らないところでの仕事の姿や働く意味などに気づく機会となった。

実際に配管をつなぎ水を通してみて水漏れもなかったのが安心しました。こうした検査などの人がたくさんいることで自分たちの生活が守られていることに感謝してもしきれないと感じました。



## 3年生

## 【卒業論文発表会】

主なテーマ「未来を繋ぐ教育」「税金について」「高校3年間の歩み」「私の部活体験」など

【1・2年生を聴き手に迎え、3年生の卒業論文発表会(個人プレゼンテーション)を行った。講堂に14ブースを作り、14人×6ターンの順に回るポスターセッションを実施した。

発表者の周りを1・2年生が取り囲み、関心のある中身には身を乗り出して聞いている生徒もいた。

3年生にとっては自分の3年間の歩みを振り返ると共に、人前で話す機会となった。内気な生徒も多いが、全員が発表するというチャレンジでもあった。

画像や動画を取り入れるなど、どの生徒もiPadを駆使し聞き手にわかりやすいプレゼン資料を作成した。

自分が3年間がんばった部活体験や、進路をどのように選択したかなど全員がこうした場で発表する方式は初めてであった。また、自分の話を聞いてもらう機会となった。聞いてもらい認められる経験は、自己肯定感を向上させ、社会に出てからの自信につながると確信した。

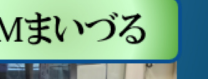


論文を作っていく中で、1・2年生に自分が何を伝えたいのか、自分の高校3年間の歩みを振り返り、いろんな事が思い出せたり、今までの自分とこれからの自分と向き合う事ができたりした。自分の進路についての内容にしたので文章を作るために保育関係について改めて調べることにより、新しく知った魅力などもあったので自分にとって良い機会だった。









真名井商店街シャッターアート (看護科生徒による) 高校生の声発信

毎日新聞 2020年11月13日

### 舞鶴(白狐) タタ ウズベク(ノリコ学級)

舞鶴市の白狐祭の生誕は11日、中央アジア・ウズベキスタンの日本語学校「ノリコ学級」の生徒とオンラインで交流した。白狐祭が舞鶴の文化を紹介する日本語学校を定期的に開催しようと発案したもので、別の舞鶴となった。白狐祭は舞鶴市の町を盛り上げる。ノリコ学級はウズベキスタンに移住された日本人帰郷が困難に直面したウズベキスタンについて、それぞれ紹介した。

**日本語講座初開催**

互いの文化を紹介

### 日星高校 SDGs部

持続可能な社会を考える

引き揚げやウズベキスタンをテーマとした国際交流などに取り組む「インターアクト部」が、今年度からSDGs部に発展しました。3学年16人がボランティアなどを通じて地域を盛り上げる活動に取り組み、地域に活気をもたらし、舞鶴を持続可能なまちに、地方から日本を持続可能な国にすることを目指しています。

部員全員がMaizuru Bamboo Monstersの18歳以下の部にも加入していて、現在、協働で発達障害のある人への療育レッスンなどを行う音楽教室の施設改善に取り組んでいます。社会課題を解決する取り組みへの京都府の補助金を活用するため、申請用の企画書づくりなどに挑戦し、採択を受けました。親や教師以外の大人と接する機会の少ない高校生にとって、いろんな業種の大人と



一緒に活動する機会は、一人ひとりの視野を広げる経験になっています。また、何かをするためには予算を獲得しなければならず、そのために企画を練るといふ社会人になっても通用する実践的な経験を積めたことは貴重な経験になりました。今後も、地域課題に、いろんな主体を巻き込んで、お互いが高め合いながら解決へ導くという取り組みを続けていきます。

## ホストタウン交流は新たなスタイル

広報まいづる 2021年

**オンライン交流 (Noriko学級一日星高校)**

昨年夏、日星高校では、コロナ禍で運営が困難な状況に陥ったウズベキスタンの日本語学校「Noriko学級」を支援する募金活動に協力され、その活動をきっかけにオンライン交流を始めました。オンライン交流では、コロナ禍での生活内容や国内の状況について互いに教え合ったほか、Noriko学級の生徒から、第二次世界大戦後にウズベキスタンに抑留された日本人の仕事や生活について教えてもらいました。

また、日星高校の生徒からは、これまで舞鶴市を訪れたウズベキスタンの方々との交流について紹介するとともに、日本語をNoriko学級の生徒に教えるなど、楽しく交流が行われています。



オンライン交流の様子

広報まいづる2023年3月号

詳しい  
こちら  
報告は

▲入国前の1期生と日星高生とのオンライン交流